

平成 28 年度 事業報告書

(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

学校法人 上野学園

平成 28 年度 事業報告書

I 法人の概要

設置する学校・学部・学科等

上野学園大学

音楽学部 音楽学科 器楽コース
 声楽コース
 グローバル教養コース
 演奏家コース
 音楽専攻科 音楽学専攻
 器楽専攻
 声楽専攻

上野学園大学短期大学部

音楽科
 専攻科 音楽専攻

上野学園高等学校

全日制 普通科 特別進学コース、総合進学コース
 全日制 音楽科 演奏家コース
 器楽・声楽コース

上野学園中学校

アドヴァンスト・コース
 プロGRESS・コース

学校・学部・学科等の学生・生徒数（平成 28 年 5 月 1 日現在）

学校	学部・学科等	入学 定員	収容 定員	入学 者数	在籍 者数
上野学園大学	音楽学部音楽学科	110	464	73	310
上野学園大学短期大学部	音楽科	50	100	27	59
上野学園高等学校	普通科	160	480	195	500
	音楽科			24	77
上野学園中学校※		80	240	41	115
合 計		400	1,284	360	1,061

※上野学園中学校は、平成 27 年度より、それまでの「普通科コース」、「音楽科コース」から「アドヴァンスト・コース」「プロGRESS・コース」とし普通科及び音楽科の生徒を統合した。

役員等の概要（平成 28 年 5 月 1 日現在）

理事 6名 石橋慶晴（理事長）、上浦種彦、後藤治夫、岡崎久彦（任期中逝去）、丹治誠、石橋香苗
監事 2名 奥村武平、田村誠邦
評議員 13名

役員等の概要（平成 28 年 6 月 21 日現在）

理事 6名 石橋香苗（理事長）、船山信子、石橋慶晴、中野邦夫、鈴木達也、江幡亜木
監事 2名 田村誠邦、広中絵里
評議員 13名

教職員構成、人員数（平成 28 年 5 月 1 日現在）

教員／事務職員	専任	非常勤	合計
上野学園大学	33	113	134
上野学園大学短期大学部	9	17	26
上野学園高等学校	54	43	97
上野学園中学校			
事務職員	34	18	52
合計	130	191	321

上野学園の沿革

1904年 11月 建学の精神を「自覚」として、石橋藏五郎が私立上野女学校を創立（下谷区上野桜木町 2 番地）
1910年 9月 財団法人私立上野高等女学校創設
1912年 10月 浅草区神吉町 46 番地（現台東区東上野 4 丁目）に移転
1914年 11月 私立上野実習女学校を、私立上野家政女学校に改称
1946年 4月 上野女子高等学院（文化科・家政科）を設置
上野高等女学校専攻科（英語科・被服科）を設置
財団法人上野学園に改称
上野高等女学校が東京都の音楽研究指定校となる
1947年 4月 上野学園中学校を設置（学校教育法実施により上野高等女学校および同専攻科は上野学園中学校・上野学園高等学校に改組。高等学校は翌年に設置される）
1949年 4月 上野学園高等学校に全国初の音楽科を設置
上野学園高等学校別科を設置
1951年 2月 学校法人上野学園に変更
1952年 4月 上野学園短期大学を開学し、音楽科を設置
石橋益恵、学長に就任
上野女子高等学院を廃止
1956年 4月 短期大学家政科を設置（2006 年廃止）

1958年 4月	上野学園大学開学、音楽学部器楽学科・声楽学科・音楽教育学科を設置 石橋益恵、学長に就任
1959年 3月	短期大学音楽科を発展的に解消
1961年 3月	上野学園家政高等学院が上野学園草加高等学校に改組
1963年 4月	大学音楽学部器楽学科に日本初のチェンバロ専門、音楽教育学科に音楽学専門を開設
1963年 10月	大学音楽学部、日本音楽史料の組織的収集に着手
1964年 4月	石橋藏五郎逝去 同年 6月に、石橋益恵、理事長に就任
1966年 4月	大学音楽専攻科（音楽教育専攻・器楽専攻・声楽専攻）を設置 短期大学音楽科を再設置（埼玉県草加市）
1968年 4月	短期大学専攻科（音楽専攻）を設置
1969年 4月	大学音楽学部器楽学科に日本初のリュート、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リコーダーの各専門を開設
1970年 4月	大学音楽専攻科の音楽教育専攻を音楽学専攻に改称
1971年 4月	大学音楽学部器楽学科に日本初のギター専門を開設
1973年 4月	研究施設、上野学園日本音楽資料室を創設
1974年 11月	創立 70 周年記念講堂（石橋メモリアルホール）竣工
1981年 4月	石橋益恵、学園長に就任 石橋裕、上野学園大学および上野学園短期大学長に就任
1985年 4月	短期大学家政科を草加キャンパスに移転、短期大学を集約し、名称を上野学園大学短期大学部に改称 短期大学部人文学科（英語専攻・文化専攻）を設置
1992年 2月	石橋益恵逝去 同年 3月に石橋裕、理事長に就任
1995年 4月	短期大学部人文学科を大学国際文化学部へ改組転換、英語と英国・アイerland文化コース、スペイン語とイベリア、ラテン・アメリカ文化コース設置
2000年 4月	
2004年 4月	短期大学部音楽科に音楽療法士養成教育課程を開講 上野学園大学音楽・文化学部を設置（音楽学部と国際文化学部を統合）
2005年 4月	音楽・文化学部音楽学科に演奏家課程を設置 演奏家課程を演奏家コースに改称 大学音楽・文化学部国際文化学科、短期大学部音楽科、家政科、上野キャンパスへ移転
2006年 10月	
2007年 4月	日本音楽資料室を上野学園大学日本音楽史研究所に改称 石橋裕、学園長に就任 石橋慶晴、理事長に就任 上野学園大学・同短期大学部、上野学園中学校・高等学校を男女共学化
2007年 9月	創立 100 周年記念事業として新校舎竣工
2007年 10月	上野学園楽器展示室を開室し、上野学園所蔵の古楽器を公開 上野学園大学日本音楽史研究所を草加キャンパスに移転

2009年4月	原田禎夫、上野学園大学・同短期大学部学長代行に就任
2010年2月	新講堂（上野学園 石橋メモリアルホール）竣工
2010年3月	大学音楽・文化学部国際文化学科廃止
2010年4月	大学音楽・文化学部を音楽学部へ改称 上野学園大学日本音楽史研究所が大学附置研究所となる
2010年5月	音楽文化研究センターを大学音楽学部の附属機関として設置
2011年4月	石橋裕、上野学園大学名誉学長の称号を授与される 前田昭雄、上野学園大学長に就任
2014年9月	石橋慶晴、上野学園大学短期大学部学長に就任
2014年11月	創立110周年記念式典挙行
2015年4月	ミュージック・リサーチ・コースをグローバル教養コースへ改称 グローバル教養コースに文化創造マネジメント専門を開設 船山信子、上野学園大学長に就任
2015年12月	上野学園大学日本音楽史研究所を上野キャンパスに移転
2016年4月	上野学園高等学校との連携プログラムを施行
2016年6月	石橋香苗、学校法人上野学園理事長に就任

II 事業の概要

学園全体に係わる主な事業の概要、進捗状況

1) 事業の概要

本学園は、自己を深く見つめ、これを内面から知る体験であり、自己の真の価値に目覚める「自覚」に基づき、すぐれた文化の継承・創造と発展に貢献し、社会に調和と秩序をもたらすことの出来る、良識のある人間を育成することを使命としている。その達成のため、専門領域である音楽の知識を深め、技術を磨く環境を学生・生徒に提供し、同時に広い範囲の見識を持ち、教養を深め、品位を高める基礎・教養科目を充実させるよう取り組みを行っている。

大学及び短期大学部においては、教学マネジメントを強化するため、「教学マネジメント組織委員会」を発足し、「ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）」、「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）」、「アドミッション・ポリシー（求める学生像と入学受入れの方針）」の3つのポリシーをマップ化し、これまで以上に詳細・明確に細分化を行い、教育方針を精査する作業を行った。

本学園の中学・高校・大学一貫教育の強化、少子化に対応する生徒・学生募集の強化、経済基盤の改善のための施策を引き続き施行。高大連携プログラムについては、平成27年度末に「上野学園 高大連携プログラム 平成28年度応募要領」を本学高等学校新3年生に配布し、本年度から開始、申し込みのあった14名（4科目延べ人数）の履修者を受け入れた。

法人全体としては、業務内容の向上及び職員の能力開発のため、本年度9月に事務組織を改編、約半年を経、その間の状況・成果を精査した上で、本年度3月末に更なる事務組織改編を実施した。平成29年度4月より、新事務組織で運営を行う。

また本学の経営及び教学のさらなる向上を目的とし、本年度6月21日に、理事、監事、評議員を一新した。理事長をトップに、教学の長である学長が理事に就任し、その他評議員の中から1名法人に関係のある学識経験者から4名、監事2名で構成し、以前よりも管理部門と教学部門の調整が円滑に運営できる体制となった。理事6名の業務分掌は、理事長、教学担当、財務担当、渉外担当（2名）、地域貢献担当となっている。

経年課題としている特に大学・短大における学生募集の強化については、平成27年度7月の企画広報部再構築により、資料請求者数をはじめ、オープンキャンパス来場者数、体験レッスン受講者数等の参加者、受講者数の改善が見られた。

2) 防災対策

消防法による消防計画に基づき5月、9月に防火防災訓練を実施。また、点検資格者による法定点検を2回実施し、不備のないように対応した。さらに震災に備えた帰宅困難者用飲料水、食料、その他災害時に必要な備蓄品を確保した。今後も必要とされる備蓄品について追加確保していく。

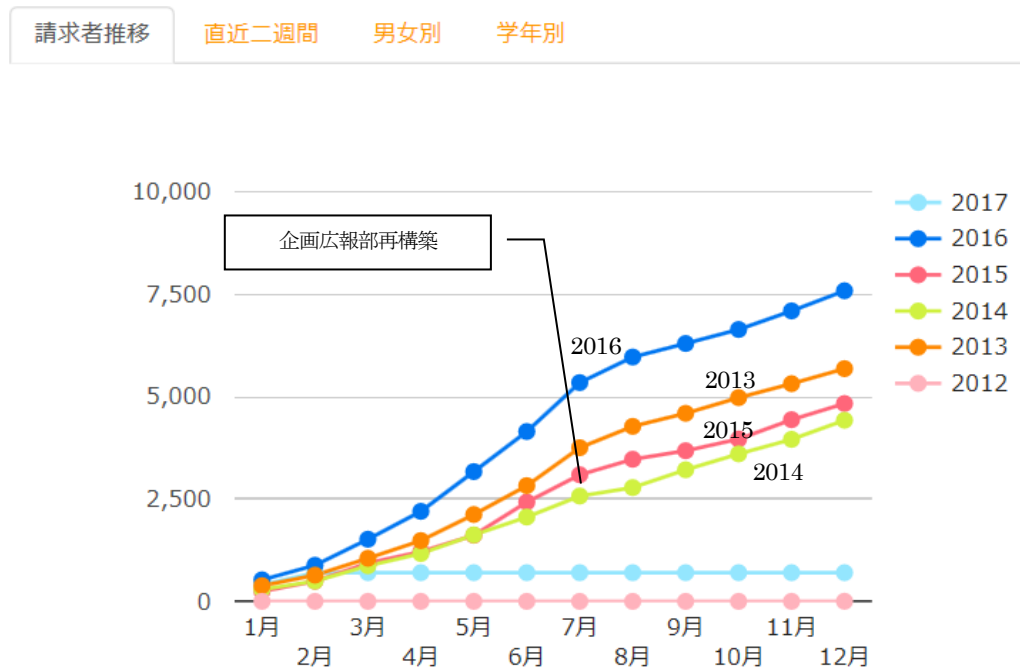
本年度は、年度末の組織改編により「施設管財・ホールチーム」が編成された。今後一層の改善・向上が図れる体制となった。

3)情報発信力の強化

上記1)で述べたように、企画広報部の改善が図れたことで、情報発信力の強化が成果として表れた。以下、資料請求者数、オープンキャンパス来場者数実績表の通り。

[表1 平成28年度 AXOLによる解析：資料請求者数（実績）]

請求者数推移



〔表 2 平成 28 年度 資料請求者数の前年度との比較〕

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
総 反応数	2016	5,069	262	473	569	801	792	931	453
	2015	4,715	218	363	237	313	656	553	263
高 3	2016	2,193	136	165	127	177	169	139	76
	2015	1,700	80	127	88	91	183	114	68
高 2	2016	1,233	111	253	203	243	301	341	164
	2015	935	98	191	80	63	174	183	63
高 1	2016				200	323	263	397	151
	2015				42	63	232	201	82
		9月	10月	11月	12月	1月 2017 2016	2月 2017 2016	3月 2017 2016	総計
総 反応数	2016	274	232	306	322	321	409	575	11,789
	2015	161	212	227	265	317	292	485	9,277
高 3	2016	69	34	57	45	29	18	33	3,467
	2015	44	20	22	17	12	14	19	2,599
高 2	2016	72	71	77	95	143	186	244	3,737
	2015	35	37	67	126	157	135	164	2,508
高 1	2016	96	96	135	151	128	181	239	2,360
	2015	51	113	104	84	121	111	250	1,545

平成 28 年度は、平成 27 年度に比べ、総反応数で約 1.27 倍に改善。

〔表 3 平成 28 年度オープンキャンパス参加者数の前年度との比較：() 内平成 27 年度値〕

	開催日	全体		3年・既卒		1・2年		保護者他		体験レッスン受講者数			
			()		()		()		()	大学		短大	
1	3/27 (日)	120	(82)	43	(32)	12	(9)	65	(41)	20	(7)	8	(2)
2	5/3 (火)	128	(116)	53	(40)	23	(14)	52	(62)	22	(14)	7	(6)
3	6/19 (日)	128	(113)	46	(39)	27	(14)	55	(60)	21	(21)	5	(6)
4	7/31 (日)	177	(82)	34	(19)	72	(31)	71	(32)	23	(9)	10	(0)
5	8/28 (日)	232	(175)	40	(34)	104	(64)	88	(77)	28	(23)	7	(5)
6	10/9 (日)	85	(72)	32	(21)	17	(21)	36	(30)	16	(9)	12	(5)
7	11/27 (日)	83	(67)	15	(15)	29	(17)	39	(36)	13	(9)	6	(3)
計		953	(707)	263	(200)	284	(170)	406	(337)	143	(92)	55	(27)

平成 28 年度は、平成 27 年度に比べ、来場者全体数で約 1.35 倍に改善。本学教員を通じて、受験者獲得に繋がる確率が高くなる体験レッスン受講者数も、約 1.55 倍に増えた。

5)音楽教室

今年度音楽教室で実施した発表会等は下記の通り。

また、本年度7月7日に、受験コース受講生徒の拡充を図り、中学生から大学入学生の増加に繋げる広報活動を活発化するため、ホームページを開設した。これにより、受験コースだけでなく、一般コース及び研究コースに関する問い合わせ件数が増加し、効果を上げている。

平成28年度 音楽教室発表会等

日付	発表会等	会場
12月17日(土)	KIDS ミュージックスクール クリスマスコンサート	第1リハーサル室
2017年 1月14日(土)	受験コース発表会	第1リハーサル室
4月22日(土)	一般コース、研究コース発表会	第1リハーサル室

※音楽教室は、次年度4月までを年度とする。

6)同窓会(惠声会)活動

惠声会は上野学園大学および同短期大学部の卒業生の同窓会組織であり、学園内に本部事務局、また全国に21の支部が設置されており会員相互の親睦や音楽に関する研究活動を、学園として奨励している。今年度の惠声会が実施または参加した活動・イベントは下記の通り。

平成28年度 惠声会活動

日付	活動・イベント	会場
5月19日(木)	惠声会幹事総会	竹内ビル701室
6月11日(土)	惠声会第34回定期演奏会	石橋メモリアルホール
7月24日(日)	惠声会稟議本部・支部会議	TKP 上野ビジネスセンター カンファレンス2A
11月6日(日)	惠声会新人演奏会	石橋メモリアルホール
11月5日(土) ～6日(日)	上野学園募金委員会主催バザー	1305教室
11月6日(日)	惠声会パーティ・コンセール	エオリアンホール 1507教室
2016年 3月17日(土)	上野学園大学・同短期大学部卒業式列席	石橋メモリアルホール

7)財務基盤の改善

収支改善により財政基盤を安定化するため、下記を実施。

- ①引き続きの要・不急の支出削減：予算枠内支出の徹底するためのシステム化
- ②資産売却（草加校地・楽譜・楽器）
- ③財務基盤及び業務改善のための組織改編

8)上野学園 石橋メモリアルホール主催・共催・協力の演奏会

本年度、上野学園 石橋メモリアルホールで開催された公演は下記の通り。

[平成 28 年度 上野学園 石橋メモリアルホール主催・共催演奏会一覧]

	区分	開催日	公演名
1	協力	4月1日	東京・春・音楽祭—東京のオペラの森 2016— 紀尾井シンフォニエッタ東京の“パーセル”と“ヘンデル”
2	協力	4月2日	東京・春・音楽祭—東京のオペラの森 2016— ブラームスの室内楽
3	協力	4月11日	東京・春・音楽祭—東京のオペラの森 2016— 安田謙一郎 ベートーヴェンを弾く～チェロ・ソナタ全曲演奏会Ⅱ
4	協力	4月12日	東京・春・音楽祭—東京のオペラの森 2016— 荒木奏美オーボエ・リサイタル
5	協力	5月4日 5月5日	PTNA 上野コンチェルトステップ
6	共催	5月31日 6月1日	第25回記念 ヴィオラスペース 2016
7	協力	8月7日	第17回 大阪国際音楽コンクール 東京本選
8	主催	8月15日	今井信子特任教授マスタークラス 2016 発表会
9	協力	8月20日	PTNA 千葉白井「音楽の和」ステーション サマーコンサート
10	共催	10月2日	古楽 21世紀シリーズ vol.2 メモリアル・バロック テレマン in パリ～大人気作曲家が旅先で見たもの～
11	主催	10月9日	教員と学生のコラボレーションによるコンサートシリーズⅥ 作曲家、矢代秋雄の世界～究極のエクリチュールを求めて
12	協力	10月23日	PTNA 千葉白井「音楽の和」ステーション 第1回定期演奏会
13	共催	10月30日	オーケストラ・リベラ・クラシカ 第37回定期演奏会
14	共催	11月20日	フェリックス・メンデルスゾーン・バルトルディ基金日本支部 クルト・マズーア追悼記念コンサート
15	共催	11月27日	第17回 スガナミピアノコンクールファイナル
16	協力	12月11日	日本現代音楽協会 ジェルジ・リゲティ没後 10 年によせて
17	共催	12月18日	第10回 ベーテン音楽コンクール 全国大会 一般 BⅠ・BⅡ部門
18	共催	12月23日	古楽アンサンブル コントラポント 第22回定期公演 「華麗なるシャルパンティエの音楽 2」
19	共催	12月24日	第10回 ベーテン音楽コンクール 全国大会 大学・院生 B 部門
20	共催	12月27日	第10回 ベーテン音楽コンクール 全国大会 大学・院生 A 部門
21	主催	平成 29 年 2月11日	教員と学生のコラボレーションによるコンサートシリーズⅦ 伝統と革新Ⅱ
22	共催	平成 29 年 3月27日	第10回 ベーテン音楽コンクール受賞者記念演奏会

大学・短期大学部部門

1)上野学園 高大連携プログラムの実施 (大学)

今年度から実施となった「上野学園 高大連携プログラム」は、本学高等学校の生徒が本学大学の講義に出席し、単位を得る制度である。本プログラム第1年度目は、4科目延べ14名が履修した。このプログラム運営に当たって大きな問題はなかったが、今後、本学高校と本学大学の学事日程の違いによる、高校生の大学授業への出席調整について検討する必要がある。

本プログラムは、より高度な学修を希望する生徒に対し、一定の成果が得られたことから、今後も改善・向上をしながら継続をしていく。

2)入学前教育の導入 (大学・短期大学部)

AO 方式による入試は、第1回は6月の実施、9月には合否が決定する。当該入学予定者は、入学までに約半年の時間的余裕が生まれる。こうした生徒の学習意欲を維持し、また、大学・短期大学部の授業に円滑に適応できるよう、入学前教育の導入を行った。これは、第1回AO入試合格者だけでなく、同様の状況に置かれる入学予定者全員に対して実施した。

平成28年度は平成29年度入学生を対象に、「レポート提出」の形をとった。大学は、任意の演奏会に行き、その演奏会について鑑賞レポートを書かせるもの、短期大学部は決められたテーマ（「私と音楽～音楽との出会いから現在、そして未来～」）でレポートを書かせるものとした。

提出されたレポートについては、大学あるいは短期大学部の担当教員がコメントを入れ、フィードバックを行う。

また、本学は語学教育を重視していることから、入学前に英検やTOEIC、TOEFL等、外部機関が実施する英語資格取得を奨励した。入学前に取得したスコアや級は、下記「単位認定基準」により、入学後単位認定を行った。単位認定については、新学期ガイダンス期間中における本人の申請に基づいて行うもので、大学・短期大学部の「英語」の履修を妨げるものではない。

〔「英語」単位認定基準〕

試験種別	スコア/級
英検	2級以上
TOEIC	520点以上
TOEFL(iBT/ CBT/ PBT)	54以上/157以上/480以上

3)カリキュラムの変更 (大学・短期大学部)

より自主的な学習が求められる大学・短期大学部では、高校生から大学生・短大生になり変化する学習方法や学習態度を意識させ、且つ円滑に移行できるよう、専門教育科目の必修科目に「初年次プログラム」(2単位)を新設した。実施は、平成29年度入学生からとなる。

平成29年度に実施される「初年次プログラム」の大学・短期大学部それぞれの授業計画は下記の通り。

〔平成 29 年度 大学「初年次プログラム」の授業計画〕

第 1 回	楽器の取り扱い方／楽器の借り方・返し方／図書館の利用方法
第 2 回	自分の時間割を作る
第 3 回	情報処理(WORD)
第 4 回	情報処理(EXCEL)
第 5 回	初年次ゼミ
第 6 回	論文・レポートの書き方
第 7 回	自校史
第 8 回	ライフ・プラン
第 9 回	キャリア・プラン
第 10 回	ライフ・プラン
第 11 回	ステージ・マナー
第 12 回	キャリア体験談 (演奏家)
第 13 回	キャリア体験談 (教育者)
第 14 回	言語表現 (建学の精神)
第 15 回	初年次ゼミ

〔平成 29 年度 短期大学部「初年次プログラム」の授業計画〕

第 1 回	楽器の取り扱い方／楽器の借り方・返し方／図書館の利用方法
第 2 回	自分の時間割を作る
第 3 回	新入生歓迎演奏会を聴く
第 4 回	言語表現 (私と音楽)
第 5 回	年金講座
第 6 回	読売新人演奏会を聴く
第 7 回	キャリア体験談 (短大卒業生)
第 8 回	論文・レポートの書き方
第 9 回	自校史
第 10 回	ライフ・プラン
第 11 回	キャリア・プラン
第 12 回	ライフ・プラン
第 13 回	ステージ・マナー
第 14 回	キャリア体験談 (演奏家)
第 15 回	キャリア体験談 (教育者)

4)副科実技レッスン実施方法の見直し (大学)

平成 27 年度に検討を行った、「副科実技 (ピアノ・声楽・器楽)」のレッスン回数及びレッスン時間の変更を実施した。この変更は、入試方法の多様化等により、コースや専門の違いによって個々の学生の力量の幅が大きくなってきたことを解消するために導入したものである。変更点は、レッスン回数を年間 30 回から 15 回 (隔週) に、②コースや専門ごとに異なっていたレッスン時間を全て 20 分に統一、の 2 点である。

この変更により、学生が自身の進度に合わせた自主練習時間を増やし、担当教員は各学生の状況や進度に合わせて、これまで以上に細やかに指導することを促進した。

しかし、今年度運用をし得られた結果として、従前に戻すほうが、より教育目標に沿うとの判断から、平成 29 年度に実施回数を年間 30 回に戻すことを決定した。

5)社会人の積極的な受入れ (短期大学部)

平成 27 年度から実施している「長期履修学生制度」を利用し、本年度初めての入学生があった。職員による履修上のアドヴァイスや、実技担当教員とのコミュニケーションを通じ、当該学生が、家庭と両立しながら専門実技の技術を無理なく磨けるよう配慮を行った。

短期大学部における「長期履修学生制度」は、上記Ⅱの 3)で示したとおり、広報の成果に伴って広く周知されてきた。オープンキャンパスの個別相談でも、相談件数が増えており、今後この制度を利用した社会人の受入れが促進されると判断している。

6)ウィーン音楽演劇大学、ウィーン大学音楽学研究所へのゼメスター留学制度の実施とドイツ語補強策 (大学)

①留学生派遣

平成 27 年度から、留学生のオンライン登録手続きを開始した、ウィーン音楽演劇大学、ウィーン大学音楽学研究所について、本年度は、夏学期 (平成 28 年 3 月～6 月) に、演奏家コース学生 1 名がウィーン音楽演劇大学ピアノ科に留学した。

②ドイツ語インストラクターによるドイツ語会話クラス開催

平成 27 年度に引き続き、ウィーン音楽演劇大学、ウィーン大学音楽学研究所へのゼメスター留学制度の実施に伴い、学生のドイツ語会話実践の補強策として、ドイツ人による授業外の会話クラス (自由参加) を週 2 回実施して効果をあげた。

7)演奏活動 (大学・短期大学部)

平成28年度に実施した大学および短期大学部主催・参加の演奏会は下記の通り。

昨年度に引き続き、「音楽大学オーケストラ・フェスティバル」・「音楽大学フェスティバル・オーケストラ」に参加、他音楽大学とのコミュニケーションをより深めると共に、上野学園大学管弦楽団の音楽的・技術的質の向上を推進した。その他、5月の「ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン」をはじめとした各種学外からの依頼イベントに多数参加し、地元上野をはじめとした地域の文化活動の発展に寄与すると同時に、クラシック音楽の啓蒙に貢献した。また、内外にその演奏活動の周知が広まってきたことで、秋の演奏家コース協奏曲演奏会、オーケストラ定期演奏会、合唱定期演奏会等については約85%の集客率を確保した (前年度比10%増)。

[平成27年度上野学園大学・同短期大学部主催・参加演奏会（一部ホール主催公演と重複）]

日付	演奏会	会場
4月27日(水)	音楽の森 ミニ・コンサート	草加市役所
5月14日(土)	春の演奏会 2016	上野学園 講堂
5月21日(土)	ギャラリー・コンサート	台東区 一葉記念館
5月22日(日)	ミュージアムコンサート	国立科学博物館
6月18日(土)	エキュート上野ステーションコンサート	JR 上野駅構内
6月22日(水)	演奏課家コース サマー・コンサート	上野学園 講堂
6月29日(水)	ランチタイム・コンサート vol.66 演奏家コース学生による演奏会～私のお気に入りの 作品～vol.7	上野学園 講堂
7月3日(日)	JR 上野駅主催キャンペーン「上野駅音楽祭」	JR 上野駅構内
7月10日(日)	第29回 下町七夕まつり	かっぱ橋本通り
7月29日(土)	日本工学院専門学校 ホール落成記念演奏会	日本工学院専門学校
9月3日(火)	上野警察署「駅・電車内における暴力犯罪、痴漢等撲滅キャンペーン」	JR 上野駅構内
9月24日(土) ・25日(日)	上野学園大学 若き演奏家たちによる<音楽の庭 vol.5>	旧岩崎邸庭園内 芝庭
10月22日(土)	演奏家コース オータム・コンサート	上野学園 講堂
10月28日(金)	第29回 短期大学部 定期演奏会	上野学園 講堂
10月28日(金)	北とぴあ国際音楽祭 2016 ロビーコンサート①	北とぴあロビー
11月9日(水)	上野消防署主催「防火のつどい」	上野学園 講堂
11月18日(金)	第68回 オーケストラ定期演奏会	上野学園 講堂
11月20日(日)	第7回 音楽大学オーケストラ・フェスティバル	東京芸術劇場
11月25日(金)	第5回 合唱定期演奏会	上野学園 講堂
11月25日(金)	北とぴあ国際音楽祭 2016 ロビーコンサート②	北とぴあロビー
11月27日(日)	北とぴあ国際音楽祭 2016 ロビーコンサート③	北とぴあロビー
12月6日(火)	世界エイズデー街頭キャンペーン	JR 上野駅構内
12月7日(水)	演奏家コース ウィンター・コンサート	上野学園 講堂
12月17日(土)	ウィンター・コンサート in かはく	国立科学博物館
2月8日(水)	ランチタイム・コンサート vol.73 演奏家コース学生による演奏会～私のお気に入りの 作品～vol.8	上野学園 講堂
2月17日(金)	演奏家コース 協奏曲演奏会	上野学園 講堂
2月22日(水)	第4回 ウィンド・アンサンブル定期演奏会	上野学園 講堂
2月24日(金)	短期大学部卒業演奏会	上野学園 講堂
3月2日(木)	演奏家コース スプリング・コンサート	上野学園 講堂

3月7日(火)	大学卒業演奏会	上野学園 講堂
3月11日(土)	音楽専攻科修了演奏会	上野学園 講堂
3月15日(水)	ランチタイム・コンサート vol.74 学生による演奏会企画シリーズ7《ハーブ・カルテット》	上野学園 講堂
3月25日(土) ・26日(日)	第6回 音楽大学フェスティバル・オーケストラ	ミューザ川崎 東京芸術劇場

8) ボランティア活動の定着 (大学・短期大学部)

生の演奏に触れる機会の少ない人々を対象に、学生有志が社会福祉施設等へ出向き、「上野学園ハートフル・コンサート」と名付けた出張演奏会を、平成21年度後期から今年度で約7年に渡り開催している。活動の中心となる近隣の病院及び保健所と協定書を交わし、地域とのつながりも定着しており、今後も継続して実施する。

また、平成25年度から行っている東北福祉大学と協働でボランティア活動も、引き続き実施した。

[平成28年度 上野学園 ハートフル・コンサート]

日付	内容	会場
4月29日(金・祝)	大学と短期大学部の学生による出張演奏	ボランティアフェスティバル(台東区)
6月5日(日)		下谷青年学級(台東区)
6月25日(土)		永寿総合病院(台東区)
8月9日(火)～11日(木)		東北福祉大学協働(東北福祉大学、宮城県石巻市)
9月24日(土)		永寿総合病院(台東区)
9月30日(金)		台東保健所(台東区)
12月10日(土)		永寿総合病院(台東区)
3月3日(金)		台東保健所(台東区)
3月5日(日)		そなエリア東京(江東区)

9)特別公開講座の実施（大学）

本年度実施した特別公開講座は下記の通り。

[平成 28 年度 特別公開講座]

日付	テーマ/内容	講師/演奏者	専門
5月14日（土）	春の演奏会 2015	中村拓紀非常勤講師指揮 上野学園大学合唱団 他 選出学生	
7月20日（水）	室内楽公開レッスン Mozart: Violinsonata in G Major K.301 Dvořák: Piano Quintet in A Major Op.81, 1 st movement	ジャン=ジャック・バレー 氏 レッスン受講学生	室内楽
9月14日（水）	ヴァイオリン公開レッスン S.プロコフィエフ: ヴァイオリンとピアノ のためのソナタ 第2番 ニ長調 Op.94bis J.S.バッハ: 無伴奏ヴァイオリンのための パルティータ 第2番 ニ短調 BWV1004 からシャコンヌ	緒方恵教授 レッスン受講学生	ヴァイオリン
9月28日（水）	～室内楽コンサートの本番をどう作るか ～「テレマン in パリ」リハーサル風景	前田りり子非常勤講師 他「テレマン in パリ」出演 者	
11月16日（水）	声楽公開レッスン シューベルト: 《笑いと涙》 D777 (詞: リュッケルト) シューベルト: <セレナーデ>『白鳥の歌』 D957 より (詞: レルシュタープ) レーガー: <森の孤独>『素朴な歌』作品 76 より (詞: フランケン地方民謡より)	ロベルト・ホル氏 レッスン受講学生	声楽
11月18日（金）	第65回 オーケストラ定期演奏会	下野竜也氏指揮 上野学園大学管弦楽団	
11月25日（土）	第5回 合唱定期演奏会	中村拓紀非常勤講師指揮 上野学園大学合唱団 上野学園大学室内管弦楽団	
12月14日（水）	ピアノ公開レッスン R.シューマン: 幻想曲 M.ラヴェル: 夜のガスパール	横山幸雄教授 レッスン受講学生	ピアノ

10)公開レッスンの実施 (大学)

本年度実施した公開レッスンは下記の通り。

7月20日(木) 13:00~16:00 室内楽公開レッスン

講師：ジャン=ジャック・バレー氏 (ジュネーヴ高等音楽院 室内楽科・伴奏科教授)

場所：第2リハーサル室

受講曲：①Reicha: Sinfonico for 4 Flutes D major Op.12

②Ibert: Deux interludes for Flute, Violin and Harp

9月29日(木) 15:40~19:00 ピアノ公開レッスン

講師：シュテファン・アーノルド氏 (ウィーン国立音楽演劇大学 ピアノ科教授)

場所：第2リハーサル室

受講曲：①ハイドン：ピアノ・ソナタ ハ長調 第60番 Hob.XVI50 (全楽章)

②ショパン：幻想曲 ヘ短調 Op.49

③ショパン：幻想ポロネーズ 変イ長調 Op.61

11)教学マネジメントの一定の成果 (短期大学部)

ナンバリング、カリキュラム・ツリー、カリキュラム・マップを作成、「カリキュラムを知ろう」(冊子)を準備した。(平成29年度入学生に配布)

12)FD活動 (大学・短期大学部)

今年度実施したFD活動は下記の通り。

①「上野学園・人と音・シリーズ」の開催

本学教員の研究と演奏の発表の場。

第1回 10月26日 安田正昭 (ピアノ)

「作曲家オリヴィエ・メシアンの<音による情景描写>」

②FD研究会の開催

10月26日(水) 17:10~18:30

「大学改革・大学教育改革の潮流」

講師：伊藤俊徳氏 (NPO 法人 NEWVRY 理事、高等教育事業部ディレクター)

11月28日(月) 18:30~19:30

12月1日(木) 17:10~18:10

「カリキュラムを知る」

講師：学部長、学科長、教務課員

③学生による授業評価アンケートの実施（大学・短期大学部）

本年度も講義系、実技系の2つに分けてアンケートを実施。アンケートは集計・分析の上、全教員にフィードバックした。また、本年度は大学・短期大学部全学的に「学生の授業評価アンケート」を教育現場に活用する体制を整えるため、教員にフィードバック書類を確認した後、「授業改善計画」を提出してもらった。具体的公表については、本年度に引き続き平成29年度のFD委員会で検討を行う。

13)日本音楽史研究所の事業（大学）

平成27年12月の草加校地から上野校地への移転に関して、本年度は、草加校地の所蔵資料全7万点のうち約60%（下記詳細リスト参照）を上野校地の新研究所に移動・収蔵した（平成29年度も引き続き整理が必要）。本年度は、前述作業のため、史料の閲覧を行わなかったが、平成29年度4月には閲覧の再開を予定している。

〔上野校地新研究所の所蔵資料〕

- ・文献史料（写本、版本等）
- ・楽器史料（久邇宮家旧蔵雅楽楽器を含む）約200点
- ・録音史料（レコード等）
- ・文献類（研究文献、逐次刊行物等）
- ・別置文庫（楽歳堂旧蔵楽書類、稲葉與八旧蔵楽書類、圓滿院門跡旧蔵楽書類、窪家旧蔵楽書類、平岡家旧蔵能協方福王流史料、山田孝雄旧蔵『體源抄』、摂取山引接寺旧蔵声明関係史料、永田聴泉旧蔵琴楽史料、金田一春彦収集声明史料、慧日院旧蔵真宗声明関係史料、観世新九郎流小鼓関係史料、波多野太郎収集明清史料、般舟三昧院旧蔵聖教類、田中幾之助宝生流能留書類、岸辺成雄文庫、石橋益恵袖手史料）
- ・別置文庫史料及び出張調査により撮影した写真複写本（綾小路家旧蔵楽書類、四天王寺楽人林家旧蔵楽書類、豊氏本家蔵楽書類、『楽所補任』及び春日楽書、『雅楽譜』明治撰定、『芝家日記集』、仁和寺蔵音楽関係史料、金沢文庫蔵音楽関係史料、西大寺蔵声明史料、覚秀集『魚山叢書』、醍醐寺蔵音楽関係史料、東儀鉄笛『日本音楽史考』自筆原稿）

草加校地で保留待機にしている資料、特に岸辺成雄文庫（別置文庫）について、今後、早急な対応が必要である。

通常業務については、下記の通り。

①一般業務

- ・史料の収集・維持（保存・修繕・調整）
- ・史料調査・研究
- ・史料閲覧：22名
- ・運営委員会（毎月開催）
- ・「日本音楽史研究所 月例通信」No.25～36発行
- ・研究年報『日本音楽史研究』第9号 編集・執筆（際音楽学会一連の企画により一時中断）

②人材育成

- ・平成29年2月21日 第3回 日本音楽史研究所研修会「紐の結び方、パネル修復講習」

講師：保科菜摘子氏（着付士（石川泰子きもの教育協会 助教授資格保持）・伝統色彩士協会認定講師）、林将大氏（東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻卒）

会場：上野学園大学日本音楽史研究所内

③その他

- ・5月 第20回 国際音楽学会 発表（ラウンド・テーブル）参加決定。
協賛企画として提出した、史料展観・レクチャーコンサート提案書についても同学会プログラム委員会より採択の通知受理、以後準備に取り組む。
- ・3月 第20回 国際音楽学会協力プロジェクト 日本音楽史料展 図録作成（98頁）。
- ・3月21～23日 第20回 国際音楽学会協力プロジェクト
日本音楽史料展（21～23日 於第1リハーサル室）、レクチャーコンサート唐楽・声明（22日 於上野学園石橋メモリアルホール）開催。国内外より、日本音楽史料展が3日間で約110名、レクチャーコンサートが約200名の来場数であった。
- ・3月22日 第20回 国際音楽学会
ラウンドテーブル発表にて、前田昭雄前学長、スティーヴン・G・ネルソン法政大学教授に、当研究所の国際的意義をアピールして頂いた。

高久国際奨学財団助成事業については、日本音楽史研究所が取り組む「調査研究」、「公開普及・教育」分野に関する下記事業について当該財団から助成・支援を得ている。ただし、今年度から「公開普及・教育」分野の助成が廃止されたため、事業内容を一部変更した。

①調査研究事業

- ・「日本音楽史料叢刊1『陽明文庫蔵 舞楽散楽図・法隆寺旧蔵 拵鼓』編集・刊行（平成29年4月販売開始）
- ・「日本音楽史料叢刊2 日本の印刷楽譜 I 室町時代」編集・刊行（英訳を残し、最終校正に入った。平成29年度に発刊予定。）
- ・「日本音楽史料叢刊3 楽人補任 総覧」編集（順調に翻刻・図表資料等の編集作業が進行。各原稿の確認作業に入っているが、国際音楽学会一連の企画により一時中断。）

②架蔵史料等目録の編纂とそのデータベース化準備等の調査研究事業

- ・能楽部門：約1500箱中600箱の書誌調査・目録原稿作成が終了。『日本音楽史研究』第9号に掲載予定。
- ・仏教音楽部門：声明約400箱の予備調査中。講式全200件書誌データ入力完了。
- ・雅楽部門：405箱中約20箱の書誌調査・入力終了。
- ・楽器：約200点の仮目録完成。
- ・史料のデータ化：主にマイクロフィルムのデジタルデータ化。519本中135本修了。その他、卷子10軸、冊子18冊のデジタルデータ化が終了。
- ・「日本の楽譜印刷」目録集成作成等の調査研究事業（上記「日本音楽史料叢刊2 日本の印刷楽譜 I 室町時代」に同じ）
- ・史料等採訪調査

平成29年1月11日 成篁堂文庫 東大寺文書の調査（東京）[櫻井講師]

③公開普及・教育事業 ※財団側の助成内容の変更のため、昨年度より廃止。

14)音楽文化研究センターの実施事業（大学）

①教育普及プログラム

マイケル・スペンサー客員研究員（大学客員教授）を講師とし、下記プログラムを実施。

- ・ファシリテーター養成講座【体験編】4月30日・2017年3月5日

②外部委託事業

外部からの委託事業として、下記5つのプログラムを実施。

（ミューザ川崎シンフォニーホール）

- 1) 5月3日「高校生からのファシリテーション入門」
- 2) 5月4日「こどものためのワークショップ」
- 3) 8月20日「音楽ワークショップ♪鑑賞の授業にも役立つ音楽づくり・創作ワークショップ」
（川崎市総合教育センター）

（佐賀県佐賀市）

- 4) 8月24日「わくわくワークショップ2016 音楽を作ってあそぶ マイクさんの音楽創造ワークショップ」
（佐賀市文化会館施設内）

（佐賀県嬉野市）

- 5) 8月25日・26日「音楽鑑賞の授業にも役立つ音楽づくり・創作ワークショップ」
（嬉野市立大草野小学校及び五町田小学校施設内）

その他、文化省「平成28年度大学を活用した文化芸術推進事業」として、「音楽をまなびほぐす—教育普及プログラム実践者のための人材育成支援事業 Unlearning Music（通称：ULM）」
下記10プログラムを実施、学内外から延べ230名の受講生が参加した。

- 1) 7月30日・31日、8月11日～14日

ファシリテーター養成講座【基礎編】第5期・第6期

講師：マイケル・スペンサー（上野学園大学客員教授）

参加人数：14名

- 2) 9月3日 レクチャー「音楽との関係を取り戻すプラクティス」

講師：中村亜美（九州大学准教授）、大澤寅雄（ニッセイ基礎研究所）ほか

参加人数：42名

- 3) 10月29日 ワークショップ「「触発」を引き起こすワークショップの作りかた」

講師：絹川友梨（俳優・インプロバイザー）

参加人数：12名

- 4) 11月12日 ワークショップ「対話型音楽鑑賞をカイハツする」

講師：三ツ木紀英（NPO 法人芸術資源開発機構）

参加人数：14名

- 5) 2017年2月12日

対談レクチャー「自立型アウトリーチの実現に向けて—<地域>から考える」

講師：児玉真（音楽プロデューサー）、大澤寅雄（ニッセイ基礎研究所）

参加人数：32名

- 6) 2017年2月19日

ワークショップ「越境する音楽家—ピアニストと考える「クラシック音楽」

講師：仲道郁代（ピアニスト）、丸山慎（駒沢女子大学准教授）ほか

参加人数：19名

7) 2017年3月11日 研究フォーラム「Art for Ages—高齢社会から考える音楽の可能性」

パネリスト：マイケル・スペンサー（上野学園大学客員教授）、正田悠（立命館大学）、

田部井賢一（三重大学）、柿塚拓真（日本センチュリー交響楽団）

モデレーター：向井大策（上野学園大学専任講師）

参加人数：34名

8) 10月21日、11月11日、12月16日、2017年1月20日、2017年2月17日

応用ゼミ「＜音楽＞を書く、＜音楽＞を読む」

講師：向井大策（上野学園大学専任講師）

参加人数：10名

9) 2017年2月26日 東京文化会館

フィールドワーク「音楽ワークショップの現場をフィールドワークする」

モデレーター：杉山幸代（ULMプロジェクト・ディレクター）

ゲスト講師：梶奈生子（東京文化会館事業企画課長）、福井千鶴（東京文化会館事業企画課
教育普及担当係長）

10) 2017年3月5日 ファシリテーター養成講座【体験編】

講師：マイケル・スペンサー（上野学園大学客員教授）

参加人数：26名

さらに、東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）主催、芸劇ミュージック・エデュケーション・プログラム「東京芸術劇場ウィンド・オーケストラ・アカデミー」に全面協力し、キャリアのためのゼミナールのプログラムを企画・制作した。詳細は下記の通り。

第1回 音楽家が「音楽」に向き合うとき①—楽譜の向こう側に見えるもの

日時：10月1日（土）19:00～21:00

会場：芸劇シンフォニースペース

講師：下野竜也氏（指揮者）

第2回 音楽家が「音楽」に向き合うとき②—ビートを感じる

日時：10月22日（土）19:00～21:00

会場：芸劇シンフォニースペース

講師：阿野次男氏（ジャズドラマー）

第3回 心身のコントロール、できていますか？—アレクサンダー・テクニックに学ぶ

日時：11月5日（土）①16:00～18:00 ②19:00～21:00

会場：芸劇シンフォニースペース

講師：細井史江氏（アレクサンダー・テクニックスタジオ東京主宰）

第4回 魅せる、聴かせる—演奏のその先に、何を指すのか

日時：11月19日（土）19:00～21:30

会場：芸劇リハーサルL

講師：児玉真氏（一般財団法人地域創造プロデューサー）

第5回 WHY?—なぜを極める

日 時：12月12日（土）18:30～20:30

会 場：上野学園1507講義室

講 師：シズオ・Z・クワハラ氏（指揮者）

第6回 今までの自分とこれからの自分

日 時：2017年1月28日（土）19:00～21:00

会 場：芸劇シンフォニースペース

モデレーター：杉山幸代（上野学園大学音楽文化研究センター）

東京文化会館主催、東京文化発信プロジェクト「ミュージック・エデュケーション・プログラム国際連携企画～CASA DAMUSICA～」をはじめ、その関連プログラムの広報及び制作も担当した。また、11月30日～12月1日にフランス、パリで開催された「RESEO 秋季カンファレンス」に参加し、杉山幸代研究員が「音楽をまなびほぐす」の取り組みについてプレゼンテーションを行った。

③企画

上野学園 石橋メモリアルホール主催公演について、学内公募により実施した公演は下記の通り。

1) 10月9日 「作曲家、矢代秋雄の世界～究極のエクリチュールを求めて」

企画者：上野学園大学 音楽学部 グローバル教養コース学生

形 態：教員と学生のコラボレーションによるコンサートVI

2) 2017年2月11日 「伝統と革新II」

企画者：櫻井茂（上野学園大学准教授）

形 態：教員と学生のコラボレーションによるコンサートVII

③研究

「Art of Ages」

平成27年度に計画立案したプロジェクトを本年度実施した。立命館大学の正田悠氏（日本学術振興会特別研究員）を中心とし、「Art of Ages：高齢者の Well-being と音楽実践の学術的研究」（科学研究費補助金／基礎研究C）と連携、台東区浅草にある特別養護老人ホーム「フレスコ浅草」で上野学園大学 音楽学部 グローバル教養コース学生による音楽活動プログラムを10週間にわたり実施した（10月～12月）。

活動記録（映像、ノート）を残し、正田氏の指導のもと医学的・臨床的見地からの実証データ収集も行った。

15)就職支援：キャリア支援センター（大学・短期大学部）

①就職支援の取り組み

一般企業への就職支援、低学年次からのキャリア意識の醸成、音楽能力を活かした進路への支援等、去年度に引き続き、学生の職業選択の幅を広げる取り組みを行った。学生の卒業後の動向について、職員・教員間で情報共有をし、進路不明者の減少対策も引き続き実施した。

②キャリアカウンセラーの配置と個別指導の徹底

キャリアカウンセラーによる個別面談（予約制）の他、就職活動に役立つ下記支援を去年度に引き続き実施した。キャリア支援センター発足から継続して実施・振り返りを実行することで、指導内容の精度が高くなった。

「自己分析・自己評価」、「企業研究と自己紹介・志望動機作成」、「企業エントリー」、
「応募書類添削」、「ビジネスマナー研修」、「面接対策」、「エントリー企業リスト」と「就活スケジュール表」を用いた指導、就職情報提供

③低学年次学生対応

早期キャリア教育と位置づけ、低学年次（就職活動をする学年以外）の学生が、より気軽にキャリアカウンセリングを受ける機会を促進するため、キャリアセンターの活動に関する告知・掲示等を去年度に引き続き積極的に行った。教員志望の学生には、学童保育指導員の短期アルバイトを紹介するなど、希望進路に関連したアルバイトの提案も行った。

④各種進路に対応したガイダンス・ワークショップの実施

本年度は、40種以上のガイダンスやワークショップを実施し、また開催時間等工夫を行った。去年度まではガイダンス、ワークショップを平日の授業終了後18:40～20:10（1講座）に実施していたが、大学・短大の演奏会への出演・参加、自主練習、合奏練習等で参加ができない学生に配慮し、土曜日10:30～14:30（15:00まで延長可）で2講座（途中60分の休憩を挟む）実施に変更した。この改善により学生の利便性を図ることができた。また、学生からも好評であったので、来年度も継続する。

⑤音楽教室講師希望者支援

本年度は、これまで継続してきたことに加え、特に「音楽教室講師希望者のためのガイダンス」について、改善を行った。音楽教室に提出する、選考のための「応募用紙」を各種集め、それを分析することで、今日の音楽教室必要とされる人材を明確化し、ガイダンスに活かすことで学生のモチベーション向上を図った。また、過去に音楽教室を受験したことのある学生や卒業生にヒアリングをし、専門教養試験を実施している音楽教室の受験対策を具体的に指導した（例えば、頻出問題の解説等）。こうした工夫により、第一次試験の通貨率が高まった。

[本年度に実施したガイダンス、講座]

- ・音楽教室講師希望者のためのガイダンス
- ・「ヤマハグレード試験対策講座（ピアノ演奏グレード5級）」
- ・「ヤマハグレード試験対策講座（ピアノ指導グレード5級）」
- ・「カワイグレード試験対策講座（ピアノ演奏グレード6級）」

⑥教員希望者支援

本年度は、これまでの「教員希望者のためのガイダンス」から「教職履修者のためのガイダンス」と名称を変更した。「教員希望者のためのガイダンス」とすると、教員希望者に限定されてしまい、音楽教室講師やその他教育関連の仕事を考えている学生の参加が見られなかった。しかし「教職履修者のためのガイダンス」と改称することで、教員だけに囚われず、教職教養を活かし

た教員関連の仕事を目指す学生の参加につながった。

さらに「求められる教員像」と「教員採用試験の流れ」の2テーマだった内容について、内容の多様化、また、開催日を増やし、実践プログラムの導入を図ることで、学生の学習スピードを上げ、自学習への自己理解促進を図った。

内容については、「教員採用試験について」（全3回）、「各都道府県の教員採用スケジュール」「各都道府県の教員採用試験出題傾向について」、「教員採用試験過去問題実践（一般教養・教職教養・専門教養）」とテーマの多様化、具体化を行った。

[本年度に実施した教育関係の職業を目指す学生のためのガイダンス]

・「教職履修者のためのガイダンス」

⑦提携企業とのインターンシップ実施

去年度引き続き、音楽療法を積極的に取り入れているデイケア老人福祉施設を運営する企業と提携し、音楽療法および介護補助を行うインターンシップを実施した。参加を希望した学生は、当該施設において、5日間のプログラムを体験した。

インターンシップ期間中は、より深い学びへとつなげられるよう、活動の記録を作成し、学生から受け入れ先の職員に提出。インターンシップ終了後は、参加した学生たちによる「インターンシップ報告会」を開催し、互いの学びを共有、その後の進路選択に活かす場となった。

16)オープンキャンパス（大学・短期大学部）

Ⅱ-1)で触れたように、企画広報部の改善が図れたことで情報発信力が増し、その成果の一環として、本年度は、オープンキャンパス来場者数（オープンキャンパス期間中の体験レッスン者数も含む）が去年度と比べると、全体で約1.35倍と増加、改善・向上の契機を作った。本学教員を通じて、受験者獲得に繋がる確率が高くなる体験レッスン受講者数も、約1.55倍に増えた（P.7-表3「平成28年度オープンキャンパス参加者数の全年度との比較」）。

本年度の実施日は下記の通り。

- 第1回 3月27日（日）
- 第2回 5月3日（火・祝）
- 第3回 6月19日（日）
- 第4回 7月31日（日）
- 第5回 8月28日（日）
- 第6回 10月9日（日）
- 第7回 11月27日（日）

中学・高校部門の事業

① 生徒募集活動の実施

前年度に引き続き募集推進会議を開催、学校説明会や進学相談会開催前に実施内容の指示や確認を行った。18回の学校説明会、2回のオープンスクール及び40回の外部における進学相談会を実施。学校説明会では、各回にテーマを設定、「ひとり一つの楽器」体験や国立科学博物館見学、授業体験、昼食体験等多くの体験を通じた実践的説明会とした。

特に中学校では、2020年の大学入試改革を鑑み、今日子ども達が将来求められる力、上野学園中学校でアクティブ・ラーニングを実施する理由について、本中学で行っている様々な取り組み事例と合わせて紹介を行った。また、インターネット出願システムの導入、受験料の変更、面接の廃止を行った。このような工夫が成果を上げ、出願数増加につながった。しかし、出願から合格、そして入学手続きへと確実に進ませるためには、引き続きの工夫や改善が必要である。

その他、中高生徒から有志を募り、「上野学園コンシェルジュ」を組織、学校説明会時の受付、施設案内、個別相談など生徒達が主体となって、説明会の運営に関わる場を作った。受験生と等身大の本校生徒達と関わる機会を設けることで、受験生とその保護者の持つ入試への不安等を和らげることができた。アンケート結果からも、「上野学園コンシェルジュ」の存在が受験へと導いた例があり、その成果があったことがわかった。この組織に参加することは、本校生徒にとっても教育上大変良い影響を生んでいる、という実感を得た。

夏休みに開催したオープンスクールでは、授業体験や部活体験を行い本校の雰囲気が実体験できる機会とした。また教職員は、説明会前に必ずリハーサルを行い、保護者・受験生にわかりやすく、明確に伝わる説明になっているかをチェックした。説明会終了後は、すぐに反省会を行い、そこで出された良かった点、悪かった点を精査した上、次の説明会に反映した。

アンケート結果から、中学で実施した学校説明会に対する参加者の満足度は非常に高いことがわかった。説明会参加者は前年度に比べ57名増加、延べ出願者数は51名増加した。しかし、入学手続きに至る率が低く、入学者は前年度に比べ9名減少した。

高校については、学校説明会参加者は前年度に比べ42名、出願者数7名の減少となった。入学者は前年度比24名減少したが、195名という好結果であった。

② 塾訪問・学校訪問の強化

本年度は、安藤教諭・井上教諭・木下教諭を塾訪問担当とし、時間割を調整し週1回の定期訪問を行った。重点地域を含む各塾に年2～3回の訪問を実施したことで、塾の先生方に本校の存在、取り組みを直接紹介・説明する良い機会であった。

また、他の中高の先生から、それぞれの塾で中心となっている人物の紹介を受けた上で、各塾の本部へ説明訪問に行けたことも本校の認知度を高める大きな原動力となった。本校の取り組みや活動について理解を得られたことに加え、率直なアドバイスを受けることで、今後に向けた課題や重点目標が明確となった。

③ 中学校 適性検査型入試 (S日程) 試験の内容変更

本中学校受験者数を増やすことを目的とし、同じ区内にある白鷗高等学校附属中学校の入試問題を分析・研究し、平成27年度に「適性I (作文)」を導入した。これにより、適性検査型入試 (S日程) の受験者数増加につながった。去年度比18名増、92名となった。しかし、入学手続きに至った生徒は0名であった。

上記①で述べたように、出願から合格、そして入学手続きへと確実に進ませるための施策が必要であり、今後の課題として残った。

④中学音楽専門、高等学校音楽科生徒募集の実施

中学音楽専門のより徹底した周知を図るため、学校説明会及び個別相談窓口において、音楽専門入学希望者に対し、これまで以上に、本校の学びやその体制、環境等をより具体的かつわかりやすく説明するようになった。

高校音楽科説明会では、説明会に公開レッスンを取り入れ、入学後の音楽教育環境がより伝わる工夫を行った。またミニ講座は、受験生と一緒に本校の高校生も受講する形を取り、趣向を凝らした。

外部での中高音楽科説明会については、前年度に引き続き、楽器店直営音楽教室との信頼関係強化、実力ある本校生徒の出張演奏を実施した。また、音楽教室の生徒に対し、本校の教員がレッスン依頼を受け、出張レッスンを行ったことも、関係強化につながった。

本校卒業生に対しては、来校の機会に、広報物の配布や懇親会等を通じ、改めて母校の魅力を発信する一員となるよう、コミュニケーションを図った。

在校生の満足度を向上するための取り組みとしては、上野学園 石橋メモリアルホール主催ランチ・タイムコンサートの出演者として、生徒が日々の教育の成果を舞台上で発揮できる機会とした。このコンサートは、昼食後の憩いの場として、近隣の会社員や住民に定着しているものであり、本校音楽専門の広報の1ツールと位置付けている。さらに中高独自企画の「フレッシュコンサートⅠ」を実施し、ホームページで情報発信を行った。

2)学力レベル向上への取組み

去年度引き続き高3特進クラス対象に英語、数学、国語、物理の講座を行った。担当講師との毎週1回の打合せや講座内容報告を重ねることにより、校内の平常授業内容との連動や個別対応内容の深化など年々効果的な指導が構築されてきている。何より学内教員と大手予備校講師の技術面での交流に大きな役割を果たし、相互の指導力研修にも繋がっている。特に数学での連携は非常に上手くいったことにより、本年度は難関理系大学の合格数が上昇した。

⑤放課後講座の実施（学内教員担当）

去年度引き続き、中学2、3年、高1特進、高2特進では、学内教員による放課後講座を実施し、基礎力や応用力の向上を図った。中学では英語・数学を中心に基礎力を固め、高校では特進クラスαβ別に英語・数学・国語の講座を実施し、現状の実力に合わせた基礎力育成から受験に必要な応用力の育成までを含めたきめ細かな指導を行った。

⑥中高全学年対象講習の実施

中学、高校ともに5科目を中心に夏期および冬期講習を実施した。夏期講習ではⅠ～Ⅲ期に分け、それぞれ目的に合った様々な講座を実施した。授業の復習を行う講座や受験に向けて実力をつける講座、特別講座として探求型のフィールドワーク等も開催した。これらは去年度引き続き実施したものである。

⑦中2、高1、高2の特進コース対象勉強合宿の実施（継続）

高校生は、8月初旬に3泊4日で合宿を行い、講習と自習時間を合わせ1日12時間以上の学習を課し、難関大学合格のために必要な自学自習の重要性を体験した。中学生は、8月下旬に2泊3日行い、いつもとは異なる環境下で集中して学習、学ぶことの楽しさ、団体での生活や規律、仲間意識を醸成した。

⑧各種検定の実施（継続）

目標を達成することの満足感や学習への動機を高めるため、検定合格に向けた指導の充実を図り、多くの検定に生徒を挑戦させた。（例：英語検定、漢字検定、数学検定、硬筆・毛筆書写技能検定、ワープロ検定、ニュース検定、TOEIC Bridge 等）

⑨自学自習の構築

生徒が「SAKURA 手帳」を活用し、自らスケジュールリングやタスク管理を行っている。定期考査については、各教室・廊下の掲示を使い、2週間前からカウントダウン方式で考査日までの日数を表示、生徒自身が勉強の計画を立てた。また、生徒の自習場所として、考査1週間前からは、4階フロア全体を自習スペースとして開放した。

3)教員の指導力強化

本年度は、教員全体研修の一環とし、校内研究授業を行った。国語科と体育科がそれぞれのテーマを設定し、中高生がその授業に参加、教壇に立つ教員を除き全ての教員が授業を参観、その後意見交換を行った。

また、勤続2年未満の教員を対象とした新任教員研修として、当該教員の授業を公開とした。授業には、約10名の教員が参観し、授業後に各教科会議で評価される点や改善点等の意見交換を行い、新任教員が効果的に経験を積み、能力を向上できる機会を作った。

新たな取り組みとしては、学期毎に1週間のフロア公開（フロア全ての教室の扉を開放）期間を設け、教員が自由に他の教員の授業を参観できるようにした。これを教員相互による授業改善・向上に活用する機会とした。

教員の指導力強化に当たっては、塾等の外部機関が主催する研修やセミナー、研究会等への積極的な参加を促進しており、多くの教員が実際に自身の能力向上に資すると考える研修等に参加した。研修等に参加した教員は、その内容を、職員会議で発表し、他の教員と情報共有を行った。

さらに、「アクティブ・ラーニング委員会」の下部組織として、「クリティカルシンキング科」を設置、中学におけるフィールドワーク、高校における合教科型プログラムの研究及び実践を行った。この取り組みは、「私学協会・私学研究所主催の研究協力学校事業」の一環として実施したもので、3月末に当該機関に対して中間報告書を提出した。

4)生徒の健康と安全

去年度引き続き、校内の救急体制の整備のため、下記取り組みを行った。

①食物アレルギーの知識の普及・研修会の実施

4月の職員会議で食物アレルギーのある生徒一覧情報を共有。5月の新任研修で食物アレルギーの緊急時の対応を実施した。

②教職員、生徒対象救命救急講習会の実施

教職員対象の普通救命講習会を実施した。また、生徒対象には普通救命講習 1 回、上級救命講習 1 回を実施した。

③中 3 対象 HIV 講習会の実施～命の大切さを学ぶ～

台東保健所の「HIV 予防啓発事業」を活用し、中 3 対象に外部講師による HIV 講習会を開催した。

5)中学校音楽専門、音楽コースおよび高等学校音楽科生徒によるコンサート

本年度に実施した中学校音楽コース、高等学校音楽科生徒出演の主な演奏会は下記の通り。

[平成 28 年度 中学校音楽専門、音楽コース・高等学校音楽科生徒による主なコンサート]

実施日	演奏会	会場
5 月 7 日 (土)	中二・高二演奏会	上野学園 講堂
7 月 13 日 (水)	演奏家コース室内楽前期発表会	第 1 リハーサル室
7 月 25 日 (月)	上野学園中高音楽科スペシャル	上野学園 講堂
9 月 24 日 (土) 9 月 25 日 (日)	桜鏡祭演奏会	上野学園 講堂
10 月 30 日 (日)	台東区合唱祭	東京藝術大学奏楽堂
11 月 26 日 (土)	中高総合演奏会	上野学園 講堂
12 月 13 日 (火)	高 3 音 A 組 演奏研究発表会	アンサンブル室
12 月 18 日 (日)	台東区上野の森ジュニア合唱団 ウィンターコンサート	ミレニアムホール
2017 年 2 月 18 日 (土)	高校卒業演奏会	上野学園 講堂
2017 年 2 月 26 日 (土)	フレッシュコンサート I	上野学園 講堂
2017 年 3 月 15 日 (水)	演奏家コース室内楽後期発表会	上野学園 講堂
2017 年 3 月 18 日 (土)	中学卒業演奏会	上野学園 講堂
2017 年 3 月 22 日 (水)	高 2 音 A、高 1 音 A 演奏研究発表会	アンサンブル室
2017 年 3 月 22 日 (水)	中 1、中 2 音楽専門 ミニコンサート	第 2 リハーサル室

Ⅲ 財務の概要

1)平成 28 年度決算の概要

①資金収支計算書

《収入の部》

本年度の収入は、主に学生生徒等納付金収入 1,144 百万円、手数料収入 18 百万円、寄付金収入 40 百万円、補助金収入 415 百万円、草加土地やバッハ自筆楽譜売却等による資産売却収入 406 百万円によるもので、また、音楽教室等の付随事業・収益事業収入 40 百万円、雑収入 83 百万円、主に短期借入による借入金収入 101 百万円、前受金収入 186 百万円、その他の収入は 152 百万円となった。

《支出の部》

人件費支出 994 百万円、教育研究経費 377 百万円、管理経費 356 百万円、借入金返済支出は 351 百万円、設備関係支出 91 百万円、資産運用支出 6 百万円、その他の支出 103 百万円と資金支出調整勘定を併せて翌年度繰越支払資金は 403 百万円となった。

②事業活動収支計算書

教育活動収支は、事業活動収入の部は合計 1,722 百万円で、事業活動支出は、合計 1,944 百万円となり、教育活動収支差額では△221 百万円のマイナス。

教育活動外収支と特別収支を併せた当年度収支差額は 171 百万円のプラスだが、これは資産売却による一時的な収入が含まれており、今後は一層の学生生徒数の確保による学生生徒納付金収入の増加や、経費の削減による確実な教育活動収支差額の改善が求められる。

なお、対予算比較では、当年度収支差額は、事業活動収入の増や教育研究経費、管理経費の減などにより△270 百万円の対予算増となった。

③貸借対照表

《資産の部》

固定資産は 7,663 百万円で、主に減価償却や一部の資産売却により対前年△180 百万円の減。流動資産は 444 百万円で、現預金の増と未収入金の減などを併せて 126 百万円の増となった。

《負債の部》

固定負債は 254 百万円で、長期借入金の減と、リース契約の増加による長期未払金の増などを併せて、7 百万円の増。流動負債は 463 百万円で、主に短期借入金の減により△233 百万円の減となった。

《純資産の部》

基本金は資産売却等があったため、取崩により△135 百万円の減だが、翌年度繰越収支差額が 307 百万円増加したため、合計で 171 百万円の増となった。

2)平成 28 年度 財務諸表

①資金収支計算書

資 金 収 支 計 算 書

平成 28 年 4 月 1 日 から

平成 29 年 3 月 31 日 まで

(単位:円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	1,113,254,000	1,144,424,150	△ 31,170,150
手数料収入	18,854,000	18,909,980	△ 55,980
寄付金収入	44,750,000	40,979,234	3,770,766
補助金収入	390,233,600	415,652,531	△ 25,418,931
国庫補助金収入	58,226,000	70,826,993	△ 12,600,993
東京都補助金収入	306,050,500	312,018,438	△ 5,967,938
東京都私学財団補助金収入	25,957,100	32,807,100	△ 6,850,000
資産売却収入	406,387,900	406,787,900	△ 400,000
付随事業・収益事業収入	34,559,000	40,397,785	△ 5,838,785
受取利息・配当金収入	733,000	705,541	27,459
雑収入	56,198,000	83,135,005	△ 26,937,005
借入金等収入	300,000,000	101,000,000	199,000,000
前受金収入	206,000,000	186,414,140	19,585,860
その他の収入	121,708,701	152,965,113	△ 31,256,412
資金収入調整勘定	△ 207,390,276	△ 227,659,983	20,269,707
前年度繰越支払資金	190,908,315	190,908,315	
収入の部合計	2,676,196,240	2,554,619,711	121,576,529
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	1,001,082,121	994,681,675	6,400,446
教育研究経費支出	457,424,526	377,353,809	80,070,717
管理経費支出	423,812,342	356,747,991	67,064,351
借入金等利息支出	5,600,000	3,013,406	2,586,594
借入金等返済支出	350,586,552	351,986,552	△ 1,400,000
施設関係支出	192,000	9,110	182,890
設備関係支出	58,429,504	91,550,582	△ 33,121,078
資産運用支出	7,000,000	6,958,163	41,837
その他の支出	106,401,522	103,810,365	2,591,157
(予備費)	(0)		
	10,000,000		10,000,000
資金支出調整勘定	△ 121,268,415	△ 135,021,979	13,753,564
翌年度繰越支払資金	376,936,088	403,530,037	△ 26,593,949
支出の部合計	2,676,196,240	2,554,619,711	121,576,529

②事業活動収支計算書

事業活動収支計算書

平成28年4月 1日から

平成29年3月31日まで

(単位:円)

		科 目	予 算	決 算	差 異	
教育活動収入の部	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	1,113,254,000	1,144,424,150	△ 31,170,150	
		手数料	18,854,000	18,909,980	△ 55,980	
		寄付金	44,750,000	40,979,234	3,770,766	
		経常費等補助金	389,533,600	412,595,531	△ 23,061,931	
		国庫補助金	57,626,000	70,826,993	△ 13,200,993	
		東京都補助金	305,950,500	312,018,438	△ 6,067,938	
		東京都私学財団補助金	25,957,100	29,750,100	△ 3,793,000	
		付随事業収入	34,559,000	40,397,785	△ 5,838,785	
		雑収入	56,198,000	65,283,172	△ 9,085,172	
		教育活動収入計	1,657,148,600	1,722,589,852	△ 65,441,252	
教育活動支出の部	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異	
		人件費	996,334,906	983,216,732	13,118,174	
		教育研究経費	682,789,526	599,418,827	83,370,699	
		管理経費	437,679,842	361,409,888	76,269,954	
		徴収不能額等	0	0	0	
教育活動支出計	2,116,804,274	1,944,045,447	172,758,827			
		教育活動収支差額	△ 459,655,674	△ 221,455,595	△ 238,200,079	
教育活動外収入の部	事業活動外収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異	
		受取利息・配当金	733,000	705,541	27,459	
		その他の教育活動外収入	17,579,438	28,396,951	△ 10,817,513	
		教育活動外収入計	18,312,438	29,102,492	△ 10,790,054	
		科 目	予 算	決 算	差 異	
教育活動外支出の部	事業活動外支出の部	借入金利息	5,600,000	3,013,406	2,586,594	
		その他の教育活動外支出	0	1,943,866	△ 1,943,866	
		教育活動外支出計	5,600,000	4,957,272	642,728	
		教育活動外収支差額	12,712,438	24,145,220	△ 11,432,782	
		経常収支差額	△ 446,943,236	△ 197,310,375	△ 249,632,861	
特別収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異	
		資産売却差額	404,252,816	403,956,215	296,601	
		その他の特別収入	844,000	6,358,884	△ 5,514,884	
	特別収入計	405,096,816	410,315,099	△ 5,218,283		
	事業活動支出の部	特別支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
			資産処分差額	2,696,085	2,930,985	△ 234,900
その他の特別支出			17,574,419	38,531,264	△ 20,956,845	
特別支出計	20,270,504	41,462,249	△ 21,191,745			
		特別収支差額	384,826,312	368,852,850	15,973,462	
〔予備費〕		(0)			10,000,000	
		10,000,000			10,000,000	
		基本金組入前当年度収支差額	△ 72,116,924	171,542,475	△ 243,659,399	
		基本金組入額合計	△ 27,106,516	0	△ 27,106,516	
		当年度収支差額	△ 99,223,440	171,542,475	△ 270,765,915	
		前年度繰越収支差額	△ 2,901,346,973	△ 3,134,377,850	233,030,877	
		基本金取崩額	0	135,872,164	△ 135,872,164	
		翌年度繰越収支差額	△ 3,000,570,413	△ 2,826,963,211	△ 173,607,202	
(参考)						
		事業活動収入計	2,080,557,854	2,162,007,443	△ 81,449,589	
		事業活動支出計	2,152,674,778	1,990,464,968	162,209,810	

③貸借対照表

貸借対照表

平成29年3月31日

(単位:円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	7,663,833,263	7,844,663,858	△ 180,830,595
有形固定資産	7,449,131,239	7,640,379,447	△ 191,248,208
土地	189,184,836	191,319,919	△ 2,135,083
建物	5,786,450,037	6,056,414,955	△ 269,964,918
その他の有形固定資産	1,473,496,366	1,392,644,573	80,851,793
特定資産	123,477,665	122,521,684	955,981
その他の固定資産	91,224,359	81,762,727	9,461,632
流動資産	444,728,939	318,414,109	126,314,830
現金預金	403,530,037	190,908,315	212,621,722
その他の流動資産	41,198,902	127,505,794	△ 86,306,892
資産の部合計	8,108,562,202	8,163,077,967	△ 54,515,765
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	254,983,379	247,122,513	7,860,866
長期借入金	2,800,000	31,520,000	△ 28,720,000
その他の固定負債	252,183,379	215,602,513	36,580,866
流動負債	463,039,505	696,958,611	△ 233,919,106
短期借入金	29,720,000	269,565,990	△ 239,845,990
その他の流動負債	433,319,505	427,392,621	5,926,884
負債の部合計	718,022,884	944,081,124	△ 226,058,240
純資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	10,217,502,529	10,353,374,693	△ 135,872,164
第1号基本金	9,956,170,231	10,021,042,395	△ 64,872,164
第3号基本金	115,332,298	115,332,298	0
第4号基本金	146,000,000	217,000,000	△ 71,000,000
繰越収支差額	△ 2,826,963,211	△ 3,134,377,850	307,414,639
翌年度繰越収支差額	△ 2,826,963,211	△ 3,134,377,850	307,414,639
純資産の部合計	7,390,539,318	7,218,996,843	171,542,475
負債及び純資産の部合計	8,108,562,202	8,163,077,967	△ 54,515,765

④財産目録

財 産 目 録

平成29年3月31日 現在

I 資産総額	8,108,562,202 円
内 基本財産	7,463,494,176 円
運用財産	645,068,026 円
収益事業用財産	0 円
II 負債総額	718,022,884 円
III 正味財産	7,390,539,318 円

区 分	金 額
資産額	
1. 基本財産	
土地	80,815.77 m ² 189,184,836 円
建物	21,265.74 m ² 5,876,450,037 円
図書	196,747 冊 981,327,419 円
教具・校具及び備品	5,024 点 378,450,485 円
その他	38,081,399 円
2. 運用財産	
現金預金	403,530,037 円
その他	241,537,989 円
3. 収益事業用財産	0 円
資産総額	8,108,562,202 円
負債額	
1. 固定負債	
長期借入金	2,800,000 円
その他	252,183,379 円
2. 流動負債	
短期借入金	29,720,000 円
その他	433,319,505 円
負債総額	718,022,884 円
正味財産(資産総額－負債総額)	7,390,539,318 円

⑤監査報告書

独立監査人の監査報告書

平成 29 年 6 月 8 日

学校法人 上野学園
理事会 御中
(理事長 石橋 香苗 殿)

東京都渋谷区代々木 1 丁目 45 番 3 号
岩崎 博 公認会計士事務所
公認会計士 **岩崎 博**



私は、私立学校振興助成法第 14 条第 3 項の規定に基づく監査報告を行うため、平成 27 年 3 月 30 日付け文部科学省告示第 73 号に基づき、学校法人上野学園の平成 28 年度(平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで)の計算書類、すなわち、資金収支計算書(人件費支出内訳表を含む。)、事業活動収支計算書、貸借対照表(固定資産明細表、借入金明細表及び基本金明細表を含む。)、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

計算書類に対する理事者の責任

理事者の責任は、学校法人会計基準(昭和 46 年文部省令第 18 号)に準拠して計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

私の責任は、私が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類に対する意見を表明することにある。私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私に計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、私の判断により、不正又は誤謬による計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類の表示を検討することが含まれる。

私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

私は、上記の計算書類が、学校法人会計基準(昭和 46 年文部省令第 18 号)に準拠して、学校法人上野学園の平成 29 年 3 月 31 日をもって終了する会計年度の経営の状況及び同日現在の財政状態をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

学校法人と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上